

「僕たちは布団の中で泣いていた」 DVの悪連鎖断ちたい

小山の仲村久代さん
パートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス、DV)が社会問題になっている昨今、「殺しも殺されもしないで生き延びられるネットワークを作ろう」と、小山市で二年前、DV被害者を支援する、サバイバルネット「ライブ」を立ち上げた仲村久代さんが二十一日、宇都宮でフォーラム「DV家庭で生きぬく子供たち」でコーディネーターを務める。

〓左に関連記事



「エネルギーの元は怒り」という仲村さん

「夫婦間でも暴力は犯罪」

既婚女性の三三・二〇% 画局調査。

が夫からDVを受け、男性既婚者が妻からDVを受けた経験は、一七・四%。三日に一人がDV殺人に遭い、二十人に一人が命にかかわる暴力を受けたことがある(平成一七年内閣府男女共同参画局調査)。

夫に殴られ殺されそうになって、小さなカバンを持ち、子供の手を引いて裸足で逃げてくる。子供たちは自由に暮らして来た地域を捨て、学校も捨てる。住み慣れた町に一七年内閣府男女共同参画局調査。二度と帰れない。深まる

「僕たちは布団の中で

喪失感。

さらに、夫に殴られ、隣臓破裂しても被害届けすら出さず、シエルターに来てから被害届けを出し逮捕してもらったケースがあった。「夫婦間でも暴力は犯罪です」と仲村さんは力を込める。

世代間連鎖は実際はすごい。お父さんがお母さんに威張り散らし、殴っているのをみて育つと、「女は男から殴られているのが当たり前」と思い、男の子は暴力が内在化する。「DVが子供に与える影響は大きい」と仲村さんは嘆く。

「DV家庭で生きぬく子供たち」 あす宇都宮でフォーラム

DV(ドメスティック・バイオレンス、パートナーからの暴力)被害者支援ネットワーク「ライブ」が二

十一日午後一時半から、宇都宮市男女共同参画推進センター大集会室(宇

都宮市明保野町七七一、総合コミュニケーションセンター)で開かれる。

シンポジストに黒羽刑務所教育部教育専門官の

平間邦彦と東京都母子支援施設氷川荘職員の本広賢一、コーディネーターはサバイバルネット「ライブ」代表の仲村久代さんが務める。参加無料。申し込みは、0288-6336-4071(宇都宮市男女共同参画推進センター)まで。

平間邦彦と東京都母子支援施設氷川荘職員の本広賢一、コーディネーターはサバイバルネット「ライブ」代表の仲村久代さんが務める。参加無料。申し込みは、0288-6336-4071(宇都宮市男女共同参画推進センター)まで。